

大阪市認知症介護研修修了者ネットワーク支援事業「ふくきたる+」

大阪市認知症介護指導者 佐藤 旭保

キーワード: つながり 支える 地域を超える

活動の概要(活動の主体:個人)

【活動目的】

(理念)「笑う門にはふくきたる」

お年寄りが安心、健やか、いきいきとした人生を全うできるようスタッフのスキル向上を目的とし地域をこえた施設間連携を目指す。

【活動内容】

- ・月1回の定例会(内容)認知症ケアでの困りごと、人材育成について、勉強会の企画等
- ・年3回の勉強会(内容)「認知症ケアとは」、「ひもときシートの活用」、「実践報告会」、「死とは」等

活動のきっかけ、背景(指導者としての立場で)

認知症介護研修修了後は高いモチベーションをもって認知症ケアへに取り組むものの、業務優先、介護者本位の考えが中心である現状を打破できず悩み、認知症ケアに行き詰っている修了者の声を聴いた。また、認知症介護研修に参加したいがシフト調整ができず参加できないスタッフもいることもあり、ネットワーク支援事業を立ち上げケアの在り方についての学習会等を企画・実施できる環境の構築を目指した。

大阪市は区ごとにネットワーク事業を立ち上げているが、自身の在籍している北区は指導者1名で活動しているため、隣接区の指導者とともに活動を始め、現在は大阪市の北側を中心に指導者4名でネットワーク支援事業を展開している。

活動の経過と成果

【活動の経過】

平成26年12月:北区・福島区の認知症介護指導者2名で企画を行い、認知症介護実践リーダー研修修了者5名の計7名で立ち上げる。

平成29年4月:淀川区・西淀川区・東淀川区の指導者の参加。

平成29～31年度:認知症介護研修での呼びかけ等で都島区・大正区・中央区のリーダー研修修了者が参画

令和2年度～:コアメンバー13名で活動している。



【活動の成果】

参加者の困りごとや悩みを少しでも解消できればと考えているため、成果としては考えたことがないが、学習会の参加者からは自身が抱いていたモヤモヤの解消・知識の習得、また他事業所のスタッフと繋がれたことで、モチベーションアップになったという声が聞けている。

今後の展望

定例会や学習会に参加し、認知症ケアの在り方を理解しても、自職場も含めまだまだオールドカルチャーな部分があり、本人本位のケアができていない現状がある。事業所の理念に基づき、それぞれの考え方があり、業務の回し方があることは理解しているが、少しでも介護者主体のケアがなくなり、『人』が中心になるように各地域で頑張っている介護スタッフ等と繋がり、認知症の人が暮らしやすい場を提供できるよう取り組んでいきたい。